

【幼児教育学科 ループバック】

観点	幼児教育学科の到達指標	レベル 4	レベル 3	レベル 2	レベル 1
知識・理解	遊びを通して主体的・対話的で深い学びについて理解することができる。	遊びを通して主体的・対話的で深い学びについて理解が深まり、十分な知識を身につけて、説明が確実に行える。	遊びを通して主体的・対話的で深い学びについて理解が深まり、知識をほぼ身につけて、おおよその説明ができる。	遊びを通して主体的・対話的で深い学びについて理解が深まり、知識にやや不十分さがあり、説明があまりできない。	遊びを通して主体的・対話的で深い学びについて理解がほとんど深まらず、知識が不十分であり、説明がほとんどできない。
	子どもの資質・能力を育むための、発達段階や環境を通して保育について理解することができる。	子どもの資質・能力を育むための、発達段階や環境を通して保育について理解が深まり、十分な知識を身につけて、説明が確実に行える。	子どもの資質・能力を育むための、発達段階や環境を通して保育について理解が深まり、おおよその説明ができる。	子どもの資質・能力を育むための、発達段階や環境を通して保育について理解が深まり、説明があまりできない。	子どもの資質・能力を育むための、発達段階や環境を通して保育について理解がほとんど深まらず、知識が不十分であり、説明がほとんどできない。
思考・判断・表現	子どもの生きる力の基礎を培うための、環境構成や援助の在り方について必要な知識を身につけることができる。	子どもの生きる力の基礎を培うための、環境構成や援助の在り方について必要な知識を十分に修得し、応用が確実に行える。	子どもの生きる力の基礎を培うための、環境構成や援助の在り方について必要な知識をほぼ修得し、おおよその応用ができる。	子どもの生きる力の基礎を培うための、環境構成や援助の在り方について必要な知識にやや不十分さがあり、応用があまりできない。	子どもの生きる力の基礎を培うための、環境構成や援助の在り方について必要な知識が不十分であり、応用がほとんどできない。
	教育・福祉の専門分野を学ぶための基本となる総合的な思考力や判断力、表現力の基礎を培うことができる。	教育・福祉の専門分野を学ぶための基本となることについて総合的にしっかり考え、適切な判断や表現をすることができる。	教育・福祉の専門分野を学ぶための基本となることについて総合的に考え、一定の判断や表現をすることができる。	教育・福祉の専門分野を学ぶための基本となることではできるが、判断や表現はあまりできない。	教育・福祉の専門分野を学ぶための基本となることはほとんどできない。
技能	子どもの行為の意味に気づき、それらを分析・判断し実践に活かそうとすることができる。	園生活において子どもの行為の意味に気づき、それらを分析・判断し実践に活かそうとすることができる。	園生活において子どもの行為の意味に気づき、それらを分析・判断し実践にある程度活かそうとすることができる。	園生活において子どもの行為の意味に気づくことはできるが、それらを分析・判断し実践に活かそうとすることができない。	園生活において子どもの行為の意味に気づくことができず、保育者からの一方向的な保育実践になりがちである。
	時代の変化や様々な価値観、地域の特性に対応できる柔軟性を身につけ、現状に合わせて改善し、外部の資源を効果的に活用しようとすることができる。	時代や社会の変化や多様な考えに柔軟に対応し、自らの実践を改善し、外部の資源を活用しようとするすることができる。	時代や社会の変化や多様な考えに柔軟に対応し、自らの実践を改善し、外部の資源をある程度活用しようとするすることができる。	時代や社会の変化や多様な考えに柔軟に対応することは難しいが、自らの実践を改善しようとするところがある。	時代や社会の変化や多様な考えに柔軟に対応することができない。
関心・意欲・態度	子どもも理解の理論及び方法や、援助するために必要となる多様な保育技術を身につけることができる。	保育現場で求められる子どもも理解の理論及び方法や、援助するために必要となる多様な保育技術を十分に身につけることができる。	保育現場で求められる子どもも理解の理論及び方法や、援助するために必要となる多様な保育技術をある程度身につけることができる。	子どもも理解の理論及び方法や、援助するために必要となる多様な保育技術がある程度身につけているが、保育現場で求められるまでには至っていない。	子どもも理解の理論及び方法や、援助するために必要となる多様な保育技術をほとんど身につけていない。
	一人ひとりの子どもも理解に応じた援助や環境構成ができる。	一人ひとりの子どもも理解に応じた援助や環境構成が保育現場において実践できる能力がある。	一人ひとりの子どもも理解に応じた援助や環境構成が保育現場において実践できる能力がある程度ある。	一人ひとりの子どもも理解に応じた援助や環境構成が保育現場において実践できる能力があまりない。	一人ひとりの子どもも理解ができず、援助や環境構成が保育現場において実践できる能力がない。
	保育実践や社会生活に必要なコミュニケーション能力を身につけ、職員や保護者などと一緒に連携することができる。	保育実践や社会生活に必要なコミュニケーション能力を十分身につけ、職員や保護者などとともに柔軟に連携することができる能力をもっている。	保育実践や社会生活に必要なコミュニケーション能力を身につけ、職員や保護者などとともに柔軟に連携する能力をある程度もっている。	保育実践や社会生活に必要なコミュニケーション能力を身につけているが、職員や保護者などとともに柔軟に連携する能力が不十分である。	保育実践や社会生活に必要なコミュニケーション能力がなく、職員や保護者などとともに連携する能力には至っていない。
	豊かな感性と教養を養い、理想の保育者を描き、常に研鑽に努めることができる。	大学生活において、主体的に豊かな感性や教養を養い、理想の保育者を描き、常に研鑽に努めることができる。	大学生活において豊かな感性や教養を養い、理想の保育者をいざなぎながら、研鑽に努めようとしている。	保育への関心はあるが、大学生活において感性や教養を養おうとする姿があまり見られない。	保育への関心がなく、大学生活において感性や教養を養おうとする姿が見られない。
	社会事象や課題、子どもを取り巻く環境などに関心をもち、実践を常に振り返り、子どもの最善の利益のために新たな方法や手だてを行おうとすることができる。	社会事象や課題、子どもを取り巻く環境などに関心をもち、実践を常に振り返り、子どもたちの最善の利益のために新たな方法や手だてを行おうとすることができる。	社会事象や課題、子どもを取り巻く環境などにある程度関心をもち、実践を振り返り、子どもたちの最善の利益のために新たな方法や手だてを行おうとすることができる。	社会事象や課題、子どもを取り巻く環境などに関心はなく、実践の振り返りもあまりできないが、子どもとのかかわろうとすることは辛うじてできる。	社会事象や課題、子どもを取り巻く環境などに関心がなく、実践の振り返りがないため、子どもとのかかわることに自信がもてない。
	社会に貢献する使命感と責任感をもって、様々な課題に対応するため地域と連携し、積極的に行動することができる。	社会に貢献する使命感と責任感をもって、様々な課題に対応するため地域と連携し、積極的に行動することができる。	社会に貢献する使命感と責任感をもって、様々な課題に対応するため地域と連携し行動することができる。	社会に貢献する使命感と責任感があるが、地域と連携し行動することに消極的である。	社会に貢献する使命感と責任感がなく、地域と連携し行動することがない。
到達のめやす		100 ～ 80%	79 ～ 60%	59 ～ 20%	19 ～ %

【デザイン美術学科 ループブック】

デザイン美術学科 到達指標		レベル 4	レベル 3	レベル 2	レベル 1
観点	デザイン分野を学ぶ基礎となる知識を有することができ、 美術・デザイン分野を学ぶ基礎となる知識への理解を深めることができる。	美術・デザイン分野を学ぶ基礎となる知識を確実に修め、分かりやすく説明ができる。 美術的表現を向上させるために、必要となる基礎的な理解をしかりと身につけることができる。	美術・デザイン分野を学ぶ基礎となる知識をおおよそ修め、説明ができる。 美術的表現を向上させるために、必要となる基礎的な理解をおおよそ身につけることができる。	美術・デザイン分野を学ぶ基礎となる知識に不十分さがあり、説明があまりできない。 美術的表現を向上させるために、必要となる基礎的な理解をあまり修得できず、その応用があまりできない。	美術・デザイン分野を学ぶ基礎となる知識に欠け、説明がほとんどできない。 美術的表現を向上させるために、必要となる基礎的な理解を身につけることができない。
知識・理解	美術的表現の理論を修得し、応用することができる。	クリエーターに求められる美術的表現の理論を十分に修得し、応用が確実にできる。	クリエーターに求められる美術的表現の理論をおおよそ修得し、おおよそその応用ができる。	クリエーターに求められる美術的表現の理論をあまり修得できず、その応用があまりできない。	クリエーターに求められる美術的表現の理論を修得できず、応用ができない。
	美術的表現の必要性を、総合的に考えることができる。	美術的表現の必要性を総合的に考え抜いた上で、コンセプト立案が確実にできる。	美術的表現の必要性を考え抜いた上で、コンセプト立案がおおよそできる。	美術的表現の必要性をあまり考えられず、コンセプト立案があまりできない。	美術的表現の必要性を考えられず、コンセプト立案がほとんどできない。
	美術的表現での、要・不要や是非を判断できる。	総合的な観点から、美術的表現での正しい判断がしっかりできる。	総合的な観点から、美術的表現での正しい判断がおおよそできる。	総合的な観点を持てず、美術的表現での正しい判断があまりできない。	総合的な観点を全く持てず、美術的表現での正しい判断がほとんどできない。
	美的表現の意義を考慮し、しっかりと表現することができる。	美的表現の意義を考慮し、しっかりと表現することができる。	美的表現の意義を考慮し、おおよそ表現することができる。	美的表現の意義を考慮できず、あまり表現ができない。	美的表現の意義をほとんど考慮できず、表現がまったくできない。
技能	美術表現上、必要な技法を修得することができる。	専門分野を学ぶために必要となる学問的技法がしっかりと修得ができる。	専門分野を学ぶために必要となる学問的技法がおおよそ修得ができる。	専門分野を学ぶために必要となる学問的技法があまり修得できない。	専門分野を学ぶために必要となる学問的技法がほとんど修得できない。
	継続的に研究をし、視覚表現の提案ができる。	継続的に研究をし、客観的かつ伝わりやすい提案が確実にできる。	継続的に研究をし、客観的かつ伝わりやすい提案がおおよそできる。	継続的に研究をし、客観的かつ伝わりやすい提案があまりできない。	客観的かつ伝わりやすい提案ができない。
	クリエーターとして必要なコミュニケーション能力を修得できる。	対話を通じて相手方の意図をくみ取り、適切な提案が確実にできる。	対話を通じて相手方の意図をくみ取り、適切な提案がおおよそできる。	対話を通じて相手方の意図をくみ取り、適切な提案があまりできない。	対話を通じて相手方の意図をくみ取り、適切な提案ができない。
	美的なものに興味や関心を持ち続けることができる。	美的なものに強い興味や関心を持ち続け、意欲的に学業に取り組むことができる。	美的なものに興味や関心を持ち、意欲的に学業に取り組むことができる。	美的なものに、あまり興味や関心を持てず、意欲的に学業に取り組むことができない。	美的なものに、ほとんど興味や関心を持てず、学業にほとんど取り組むことができない。
関心・意欲・態度	真摯な気持ちで美術・デザイン分野の研究に、主体的・意欲的に取り組むことができる。	美術・デザイン分野の研究に、主体的・意欲的に、かつ真摯に取り組むことができる。	美術・デザイン分野の研究に、おおよそ主体的・意欲的に、取り組むことができる。	美術・デザイン分野の研究に、あまり主体的・意欲的に取り組むことができない。	美術・デザイン分野の研究に、ほとんど取り組むことができない。
	社会貢献する気持ちをもち、地域と連携し積極的に行動することができる。	社会貢献への使命感を持ち、地域の人と連携をしながら、積極的・主体的に行動することができる。	社会貢献への使命感を持ち、地域の人と連携をしながら、行動することができる。	社会貢献への使命感を持てず、地域の人と連携があまり取れない。	社会貢献への使命感を持てず、地域の人と連携がほとんど取れない。
	到達のめやす	100 ～ 80%	79 ～ 60%	59 ～ 20%	19 ～ %

【音楽総合学科 ループリック】

観点	音楽総合学科の到達指標	レベル 4	レベル 3	レベル 2	レベル 1
知識・理解	音楽の基礎的な理論や曲の生まれた背景を理解し、人に音楽を伝えるための知識を修得することができる。	ピアノコース・電子オルガンコース：幅広い音楽的知識を身に付け、音楽への理解を深めることが確実にてできる。 ウインドアンサンブルコース：楽曲の背景や、基礎理論を学ぶことで、聞く人に伝わる演奏ができる。 管打楽器リベアコース：管楽器の構造、仕組みなど基本的な知識を修得し技術に応用することが確実にてできる。 音楽療法コース：対象者の年代に合った曲を提供できその時代背景についての知識を確実に修得している。	ピアノコース・電子オルガンコース：幅広い音楽的知識を身に付け、音楽への理解を深めることができる。 ウインドアンサンブルコース：楽曲の背景や、基礎理論を学ぶことで、聞く人に伝わる演奏がある程度できる。 管打楽器リベアコース：管楽器の構造、仕組みなど基本的な知識を修得し技術に応用することがある程度できる。 音楽療法コース：対象者の年代に合った曲を提供できその時代背景についての知識をある程度修得している。	ピアノコース・電子オルガンコース：幅広い音楽的知識を身に付け、音楽への理解を深めることができる。 ウインドアンサンブルコース：楽曲の背景や、基礎理論を学ぶことで、聞く人に伝わる演奏を行うことがあまりでない。 管打楽器リベアコース：管楽器の構造、仕組みなど基本的な知識を修得し技術に応用することかあまりでない。 音楽療法コース：対象者の年代に合った曲を提供できその時代背景についての知識の修得が不十分である。	ピアノコース・電子オルガンコース：幅広い音楽的知識を身に付け、音楽への理解を深めることがほとんどできていない。 ウインドアンサンブルコース：楽曲の背景や、基礎理論を学ぶことで、聞く人に伝わる演奏がほとんどできていない。 管打楽器リベアコース：管楽器の構造、仕組みなど基本的な知識を修得し技術に応用することがほとんどできていない。 音楽療法コース：対象者の年代に合った曲を提供できその時代背景についての知識の修得が身についていない。
思考・判断・表現	音楽演奏や教育を行うにあたって必要な理論を適切に判断し、相手の理解に応じて伝え、必要に応じて教えることができる。	ピアノコース・電子オルガンコース：音楽的素養をもとに思考・判断・想像力をもって表現することが確実にてできる。 ウインドアンサンブルコース：聞く人に応じた選曲や、レッスン対象に応じた指導が確実にてできる。 管打楽器リベアコース：楽器の状態を診断し作業工程を考えることが確実にてできる。 音楽療法コース：音楽療法の活動目標について論理的に計画および説明が確実にてできる。	ピアノコース・電子オルガンコース：音楽的素養をもとに思考・判断・想像力をもって表現することがある程度できる。 ウインドアンサンブルコース：聞く人に応じた選曲や、レッスン対象に応じた指導がある程度できる。 管打楽器リベアコース：楽器の状態を診断し作業工程を考えることがあある程度できる。 音楽療法コース：音楽療法の活動目標について論理的に計画および説明がある程度できる。	ピアノコース・電子オルガンコース：音楽的素養をもとに思考・判断・想像力をもって表現することが不十分である。 ウインドアンサンブルコース：聞く人に応じた選曲や、レッスン対象に応じた指導があまりでない。 管打楽器リベアコース：楽器の状態を診断し作業工程を考えることがああまりでない。 音楽療法コース：音楽療法の活動目標について論理的に計画および説明が不十分である。	ピアノコース・電子オルガンコース：音楽的素養をもとに思考・判断・想像力をもって表現することがほとんどできていない。 ウインドアンサンブルコース：聞く人に応じた選曲や、レッスン対象に応じた指導がほとんどできていない。 管打楽器リベアコース：楽器の状態を診断し作業工程を考えることがあ身についていない。 音楽療法コース：音楽療法の活動目標について論理的に計画および説明がほとんどできていない。
技能	音楽の専門家としての情報収集能力と技術を持ち、関係職種と連携できるコミュニケーション能力がある。	ピアノコース・電子オルガンコース：音楽活動に必要な専門的技術・コミュニケーション能力を身につけることが確実にてできる。 ウインドアンサンブルコース：演奏者として必要な情報収集能力やコミュニケーション能力を身につけ、円滑な人間関係を築くことが確実にてできる。 管打楽器リベアコース：不良箇所を診断し修繕することが確実にてできる。 音楽療法コース：治療目的に沿った実践を関連職種と連携して行い記録することが確実にてできる。	ピアノコース・電子オルガンコース：音楽活動に必要な専門的技術・コミュニケーション能力を身につけることがあある程度できる。 ウインドアンサンブルコース：演奏者として必要な情報収集能力やコミュニケーション能力を身につけ、円滑な人間関係を築くことがあある程度できる。 管打楽器リベアコース：不良箇所を診断し修繕することがあある程度できる。 音楽療法コース：治療目的に沿った実践を関連職種と連携して行い記録することがあある程度できる。	ピアノコース・電子オルガンコース：音楽活動に必要な専門的技術・コミュニケーション能力を身につけることがああまりでない。 ウインドアンサンブルコース：演奏者として必要な情報収集能力やコミュニケーション能力を身につけ、円滑な人間関係を築くことがああまりでない。 管打楽器リベアコース：不良箇所を診断し修繕することがああまりでない。 音楽療法コース：治療目的に沿った実践を関連職種と連携して行い記録することがああまりでない。	ピアノコース・電子オルガンコース：音楽活動に必要な専門的技術・コミュニケーション能力を身につけることがほとんどできていない。 ウインドアンサンブルコース：演奏者として必要な情報収集能力やコミュニケーション能力を身につけ、円滑な人間関係を築くことがほとんどできていない。 管打楽器リベアコース：不良箇所を診断し修繕することがほとんどできていない。 音楽療法コース：治療目的に沿った実践を関連職種と連携して行い記録することがほとんどできていない。
関心・意欲・態度	常に自己資質の向上をめざし、積極的に音楽を通じて人とコミュニケーションを取ろうとする意欲がある。	ピアノコース・電子オルガンコース：自己の感性と人間性を養い、音楽と人や生活、社会とのつながりに関心を持って意欲的に取り組むことが確実にてできる。 ウインドアンサンブルコース：地域の音楽文化発展に寄与する自覚を持ち、専攻楽器の演奏技術を真摯に錬磨することが確実にてできる。 管打楽器リベアコース：様々な楽器に興味を持ち技術向上に努めることが確実にてできる。	ピアノコース・電子オルガンコース：自己の感性と人間性を養い、音楽と人や生活、社会とのつながりに関心を持って意欲的に取り組むことがあある程度できる。 ウインドアンサンブルコース：地域の音楽文化発展に寄与する自覚を持ち、専攻楽器の演奏技術を真摯に錬磨することがあある程度できる。 管打楽器リベアコース：様々な楽器に興味を持ち技術向上に努めることがあある程度できる。	ピアノコース・電子オルガンコース：自己の感性と人間性を養い、音楽と人や生活、社会とのつながりに関心を持って意欲的に取り組むことがああまりでない。 ウインドアンサンブルコース：地域の音楽文化発展に寄与する自覚を持ち、専攻楽器の演奏技術を真摯に錬磨することがああまりでない。 管打楽器リベアコース：様々な楽器に興味を持ち技術向上に努めることがあ不十分である。	ピアノコース・電子オルガンコース：自己の感性と人間性を養い、音楽と人や生活、社会とのつながりに関心を持って意欲的に取り組むことがほとんどできていない。 ウインドアンサンブルコース：地域の音楽文化発展に寄与する自覚を持ち、専攻楽器の演奏技術を真摯に錬磨することがほとんどできていない。 管打楽器リベアコース：様々な楽器に興味を持ち技術向上に努めることがあ身についていない。
到達のめやす		100 ～ 80%	79 ～ 60%	59 ～ 20%	19 ～ %

【歯科衛生学科 ループバック】

観点	歯科衛生学科の到達指標	レベル 4	レベル 3	レベル 2	レベル 1
知識・理解	全身と口腔の健康の関連を医学的に説明でき る。	全身と口腔の健康の関連について医学的に理 解がしっくり深まり、十分な知識を身に付け て、説明が確実に行える。	全身と口腔の健康の関連について医学的に理 解がだいたい深まり、知識をほぼ身に付けて、 おおよその説明ができる。	全身と口腔の健康の関連について医学的に理 解があまり深まらず、知識がやや不十分さが あり、説明があまりできない。	全身と口腔の健康の関連について医学的に理 解がほとんど深まらず、知識が不十分であり、 説明がほとんどできない。
	口腔疾患を予防し、口腔保健を向上させるた めに必要となる基本的な知識を身につけること ができる。	口腔疾患を予防し、口腔保健を向上させるた めに必要となる基本的な内容の理解がしっか り深まり、十分な知識を身に付け、説明が確 実にできる。	口腔疾患を予防し、口腔保健を向上させるた めに必要となる基本的な内容の理解がだいた い深まり、知識をほぼ身に付け、おおよその 説明ができる。	口腔疾患を予防し、口腔保健を向上させるた めに必要となる基本的な内容の理解があまり 深まらず、知識にやや不十分さがあり、説明 があまりできない。	口腔疾患を予防し、口腔保健を向上させるた めに必要となる基本的な内容の理解がほとん ど深まらず、知識が不十分であり、説明がほ んどできない。
	歯科衛生士としての専門性に繋がる教養の基 本的知識を修得し応用ができる。	歯科衛生士としての専門性に繋がる教養の基 本的知識を十分に修得し、応用が確実に行き える。	歯科衛生士としての専門性に繋がる教養の基 本的知識をほぼ修得し、おおよその応用がで きる。	歯科衛生士としての専門性に繋がる教養の基 本的知識にやや不十分さがあり、応用があま りできない。	歯科衛生士としての専門性に繋がる教養の基 本的知識が不十分であり、応用がほとんどで きない。
思考・判断・表現	歯科保健・医療・福祉の専門分野を学ぶため の基本となる総合的な思考力や判断力、表現力 の基礎を培うことができる。	歯科保健・医療・福祉の専門分野を学ぶため の基本となることについて総合的にしっか り考え、適切な判断や表現をすることができる。	歯科保健・医療・福祉の専門分野を学ぶため の基本となることについて総合的に考え、一 定の判断や表現をすることができる。	歯科保健・医療・福祉の専門分野を学ぶため の基本となることについて考えることはでき るが、判断や表現があまりできない。	歯科保健・医療・福祉の専門分野を学ぶため の基本となることについてあまり考えられ ず、判断や表現がほとんどできない。
	人々の健康に関する実際の問題の解決に向け て、科学的な根拠に基づいて論理的に考えるこ とができる。	人々の健康に関する実際の問題の解決に向け て、科学的な根拠に基づいてしっかりと論理 的に考えることができる。	人々の健康に関する実際の問題の解決に向け て、科学的な根拠に基づいて論理的にある程 度考えることができる。	人々の健康に関する実際の問題の解決に向け て、科学的な根拠に基づいて論理的に考える ことができる。	人々の健康に関する実際の問題の解決に向け て、科学的な根拠に基づいて論理的に考える ことがほとんどできない。
	歯科医療場面での正しい判断を、医療倫理の観 点から検討することができる。	歯科医療場面での正しい判断を、医療倫理の 観点からしっかりと検討することができる。	歯科医療場面での正しい判断を、医療倫理の 観点からある程度検討することができる。	歯科医療場面での正しい判断を、医療倫理の 観点からあまり検討することができる。	歯科医療場面での正しい判断を、医療倫理の 観点からほとんど検討することができる。
技能	口腔の健康やリスクを評価し指導計画を立て、 対象者に説明ができる。	口腔の健康やリスクを適切に評価し指導計画 を立て、対象者に確実に説明ができる。	口腔の健康やリスクをほぼ適切に評価し指導 計画を立て、対象者におおよその説明ができ る。	口腔の健康やリスクを適切に評価し指導計画 を立てることがあまりできず、対象者への説 明が不十分である。	口腔の健康やリスクを適切に評価し指導計画 を立てることができず、対象者への説明がほ んどできない。
	口腔疾患の予防のための基本的な施術や適切な 口腔衛生指導が実施できる。	口腔疾患の予防のための基本的な施術や適切 な口腔衛生指導がしっかりと実施できる。	口腔疾患の予防のための基本的な施術や適切 な口腔衛生指導がおおよそ実施できる。	口腔疾患の予防のための基本的な施術や適切 な口腔衛生指導があまり実施できない。	口腔疾患の予防のための基本的な施術や適切 な口腔衛生指導がほとんど実施できない。
	歯科医療におけるチームワークの重要性を理 解し他の医療従事者との連携ができ、地域歯科保 健の維持・向上のため、地域住民の視点に立ち コミュニケーションがとれる。	歯科医療におけるチームワークの重要性を理 解し、他の医療従事者との連携が でき、地域歯科保健の維持・向上のため、 地域住民の視点に立ちコミュニケーションが 十分にとれる。	歯科医療におけるチームワークの重要性をだ いたいい理解し、他の医療従事者との一定の連 携ができ、地域歯科保健の維持・向上のため、 地域住民の視点に立ちコミュニケーションが ある程度とれる。	歯科医療におけるチームワークの重要性をあ まり理解できず、他の医療従事者とも一定の 連携がとれず、地域歯科保健の維持・向上の ため、地域住民の視点に立ちコミュニケーション がほとんどとれない。	歯科医療におけるチームワークの重要性があ まり理解できず、他の医療従事者とも連携 が不十分であり、地域歯科保健の維持・向上 のため、地域住民の視点に立ちコミュニケーション がほとんどとれない。
関心・意欲・態度	人々の口腔の健康を守ること、人の心と体を 守ることに寄与する歯科衛生士の職責への十分 な自覚を持ち、医療人としての自己管理のもと に対象者本位の立場で対応ができる。	人々の口腔の健康を守ること、人の心と体を 守ることに寄与する歯科衛生士の職責への十分 な自覚を持ち、医療人としての自己管理のもと に対象者本位の立場で対応がしっかりとでき る。	人々の口腔の健康を守ること、人の心と体を 守ることに寄与する歯科衛生士の職責への一定 の自覚を持ち、医療人としての自己管理のもとに に対象者本位の立場である程度の対応ができる。	人々の口腔の健康を守ること、人の心と体を 守ることに寄与する歯科衛生士の職責への自覚が 十分とは言えず、医療人としての自己管理のもと に対象者本位の立場で対応があまりできない。	人々の口腔の健康を守ること、人の心と体を 守ることに寄与する歯科衛生士の職責への自覚 が不十分であり、医療人としての自己管理のもと に対象者本位の立場で対応がほとんどできない。
	歯科医療において自ら問題点を探し出し、関心 と意欲をもって解決するための能力を培うこと ができる。	歯科医療において自ら問題点をしっかりと探 し出し、関心と意欲をもって解決するための 能力を十分に培うことができる。	歯科医療において自ら問題点をほぼ探し出す ことができ、関心と意欲をもって解決するた めの能力をだいたい培うことができる。	歯科医療において自ら問題点をあまり探し出 すことができず、関心と意欲をもって解決す るための能力が十分に培うことができない。	歯科医療において自ら問題点をほとんど探し 出すことができず、関心と意欲をもって解決 するための能力が不十分である。
	地域社会に貢献する歯科衛生士の使命感を持 って積極的に行動することができる。	地域社会に貢献する歯科衛生士の使命感を しっかりと持って、積極的に行動することがで きる。	地域社会に貢献する歯科衛生士の使命感を一 定以上持って、ほぼ積極的に行動することが できる。	地域社会に貢献する歯科衛生士の使命感をあ まり持つことができず、十分な行動をするこ とができない。	地域社会に貢献する歯科衛生士の使命感をほ んど持つことができず、行動することがで きない。
到達のめやす		100 ～ 80%	79 ～ 60%	59 ～ 20%	19 ～ %

【教養科目 ルーブリック】

教養科目の到達指標		レベル 4	レベル 3	レベル 2	レベル 1
知識・理解	専門分野を学ぶ基礎となる内容の理解を深め、知識を身につけることができる。	専門学修の基礎となる内容の理解がしっかりと深まり、十分な知識を身につけて説明が確実に行える。	専門学修の基礎となる内容の理解がたいへん深まり、知識をほぼ身につけておおよその説明ができる。	専門学修の基礎となる内容の理解があまり深まらず、知識に不十分さがあり説明があまりできない。	専門学修の基礎となる内容の理解がほとんど深まらず、知識が不十分で説明がほとんどできない。
	社会人に求められる社会変化への対応や地域への貢献などに必要な内容の理解を深め、知識を身につけることができる。	社会変化への対応や地域貢献に関する内容の理解がしっかりと深まり、十分な知識を身につけて説明が確実に行える。	社会変化への対応や地域貢献に関する内容の理解がたいへん深まり、知識をほぼ身につけておおよその説明ができる。	社会変化への対応や地域貢献に関する内容の理解があまり深まらず、知識に不十分さがあり説明があまりできない。	社会変化への対応や地域貢献に関する内容の理解がほとんど深まらず、知識が不十分で説明がほとんどできない。
思考・判断・表現	人間や文化、社会などに関して現実の課題等に関わり、結びつけて考え、適切に判断してこれを表現することの基礎を培うことができる。	学んだ内容を課題と結びつけてしっかりと考える、適切な判断や表現をすることができる。	学んだ内容を課題と結びつけて考え、一定の判断や表現をすることができる。	学んだ内容を課題と結びつけてある程度考えることはできるが、判断や表現はあまりできない。	学んだ内容を課題と結びつけてあまり考えられず、判断や表現はほとんどできない。
	専門分野を学ぶための基礎となる総合的な思考力や判断力、表現力の基礎を培うことができる。	専門学修の基礎となることについて総合的にしっかりと考え、適切な判断や表現をすることができる。	専門学修の基礎となることについて総合的に考え、一定の判断や表現をすることができる。	専門学修の基礎となることについて考えることはできるが、判断や表現はあまりできない。	専門学修の基礎となることについてあまり考えられず、判断や表現はほとんどできない。
技能	専門分野を学ぶための基礎となる共通の学問的な技能や技術を身につけることができる。	専門分野を学ぶのに役立つ学問的な技能や技術をしっかりと身につけて、活用も確実に行える。	専門分野を学ぶのに役立つ学問的な技能や技術を身につけて、ある程度の活用ができる。	専門分野を学ぶのに役立つ学問的な技能や技術はある程度身につけたが、活用はできない。	専門分野を学ぶのに役立つ学問的な技能や技術をほとんど身につけられず、活用は全くできない。
	社会人に必要なコミュニケーション能力や社会生活の基本となる技能について、その基礎を身につけることができる。	社会人に必要な能力や社会生活の基本となる技能をしっかりと理解し、社会での活用が期待できる。	社会人に必要な能力や社会生活の基本となる技能について理解でき、社会でのある程度の活用が期待できる。	社会人に必要な能力や社会生活の基本となる技能についてある程度理解できるが、社会面での活用にはやや努力が必要である。	社会人に必要な能力や社会生活の基本となる技能についてあまり理解できず、社会での活用には十分な努力が必要である。
関心・意欲・態度	学修内容に興味や関心を持ち、見通しをもって主体的、意欲的に取り組むことができる。	強い興味や関心を持って意欲的に授業に参加し、課題などの授業外学修にもしっかりと取り組める。	興味や関心を持って意欲的に授業に参加し、課題などの授業外学修にもだいたい取り組める。	興味や関心をあまり持たず、授業もあまり意欲的に受講できず、授業外学修にはあまり取り組みにくい。	興味や関心をほとんど持たず、授業も意欲的に参加できず、授業外学修にはほとんど取り組むことができない。
	地域などの社会に関心を持ち、専門分野での学びとともに学んだことを将来役立てたいという考えながら取り組むことができる。	地域などの社会にしっかりと関心を持ち、専門分野での学びを将来役立てることについてしっかりと考えながら取り組める。	地域などの社会に一定の関心を持ち、専門分野での学びを将来役立てることについてある程度考えながら取り組める。	地域などの社会のことや、専門分野での学びを将来に役立てることについて、あまり多く考えられない。	地域などの社会のことと、専門分野での学びを将来に役立てることについて、どちらもほとんど考えられない。
到達のめやす		100 ～ 80%	79 ～ 60%	59 ～ 20%	19 ～ %

【キャリア教育 ループバック】

観点	キャリア教育の到達指標	レベル 4	レベル 3	レベル 2	レベル 1
知識・理解	職業や就労に関する基本的事項についての理解を深め、知識を身につけることができる。	職業や就労に関する基本的事項についての理解がしっかり深まり、十分な知識を身につけて説明が確実に行える。	職業や就労に関する基本的事項についてのおおよその説明ができる。	職業や就労に関する基本的事項についての理解があまり深まらず、知識に不十分さがあり説明もあまりできない。	職業や就労に関する基本的事項についての理解がほとんど深まらず、知識が不十分で説明はほとんどできない。
	キャリアに関連する社会のしくみ、社会に必要な基礎的な内容の理解を深め、知識を身につけることができる。	社会のしくみ、社会に必要な基礎的な内容の理解がしっかり深まり、十分な知識を身につけて説明が確実に行える。	社会のしくみ、社会に必要な基礎的な内容の理解がだいたい深まり、知識をほぼ身につけておおよその説明ができる。	社会のしくみ、社会に必要な基礎的な内容の理解があまり深まらず、知識に不十分さがあり説明もあまりできない。	社会のしくみ、社会に必要な基礎的な内容の理解がほとんど深まらず、知識が不十分で説明はほとんどできない。
思考・判断・表現	社会的、職業的自立に向けた将来の構想、自己のキャリアについての適性を見定めたり、必要な能力を認識するなどの思考力、判断力の基礎を培うことができる。	学んだ内容を自己のものとしてしっかり捉えて考え、適切な判断をすることができる。	学んだ内容を自己のものとして捉えて考え、一定の判断をすることができる。	学んだ内容を自己のものとしてある程度捉えて考えることはできるが、判断はあまりできない。	学んだ内容を自己のものとしてあまり捉えて考えられず、判断はほとんどできない。
	将来の進路選択のための課題解決等に関する総合的な思考力や判断力、表現力の基礎を培うことができる。	進路選択のための課題解決等について総合的にしっかり考え、適切な判断や表現をすることができるとができる。	進路選択のための課題解決等について総合的に考え、一定の判断や表現をすることができるとができる。	進路選択のための課題解決等について考えることはできるが、判断や表現はあまりできない。	進路選択のための課題解決等についてあまり考えられず、判断や表現はほとんどできない。
技能	社会において活用できる専門的な知識や技術などの基礎的な技能を身につけることができる。	専門的な知識や技術などの基礎的な技能をしっかりと身につけて、活用も確実に行える。	専門的な知識や技術などの基礎的な技能を身につけて、ある程度の活用ができる。	専門的な知識や技術などの基礎的な技能をある程度身につけているが活用はできない。	専門的な知識や技術などの基礎的な技能をほとんど身につけることができず、活用はまったくできない。
	キャリアの修得や進路選択のために必要な計画の立案に取り組むことができる。	自己の将来に強い興味や関心を持ち、意欲的にしっかり取り組むことができる。	自己の将来に興味や関心を持ち、ある程度意欲的に取り組むことができる。	自己の将来に興味や関心はあまり持てず、意欲的に取り組むことができない。	自己の将来に強い興味や関心を持てず、取り組むことができない。
関心・意欲・態度	協働の基礎となる集団におけるマナーやコミュニケーション等に関する基礎的な技能を身につけることができる。	マナーやコミュニケーション等の技能をしっかりと理解し、確実に身につけることができる。	マナーやコミュニケーション等の技能をある程度理解し、身につけることができる。	マナーやコミュニケーション等の技能をある程度理解できるが、身につけるまでにはやや努力が必要である。	マナーやコミュニケーション等の技能をあまり理解できず、身につけるまでには十分な努力が必要である。
	社会の中で自己の役割を果たすことに興味や関心を持ち、見通しをもって主体的、意欲的に取り組むことができる。	強い興味や関心を持って意欲的に授業に参加し、学習にしっかりと取り組むことができる。	興味や関心を持って意欲的に授業に参加し、学習にもだいたい取り組むことができる。	興味や関心をあまり持てず、授業も意欲的に参加できず、学習にもあまり取り組むことができない。	興味や関心をほとんど持てず、授業も意欲的に参加できず、学習にもほとんど取り組むことができない。
	キャリアを基本とした自己認識と将来設計に関心を持ち、自己の将来の姿を描くことに取り組むことができる。	自己認識と将来設計に強い関心を持ち、意欲的に将来の姿を描くことに取り組むことができる。	自己認識と将来設計に関心を持ち、ある程度将来の姿を描くことに取り組むことができる。	自己認識と将来設計にあまり関心を持てず、将来の姿を描くことはあまり取り組むことができない。	自己認識と将来設計にほとんど関心を持てず、将来の姿を描くことはほとんど取り組むことができない。
	地域社会に関心を持ち、社会人として必要な行動様式を身につけていこうと考えるから取り組むことができる。	地域社会に強い関心を持ち、学習内容を将来役立てようと考えながらしっかりと取り組むことができる。	地域社会に関心を持ち、学習内容を将来役立てようと考えながらだいたい取り組むことができる。	地域社会に関心をあまり持てず、学習内容を将来役立てようとは考えられず、取り組むことはあまりできない。	地域社会にほとんど関心を持てず、学習内容を将来役立てようとは考えられず、取り組むことはほとんどできない。
	到達のめやす	100 ～ 80%	79 ～ 60%	59 ～ 20%	19 ～ %

学修成果等の検証に関するプラン(アセスメント・プラン)

1. 目的

この方針は、卒業認定・学位授与の全学方針（全学ディプロマ・ポリシー（以下「DP」という。））、教育課程編成・実施の全学方針（全学カリキュラム・ポリシー（以下「CP」という。））及び入学者受入れの全学方針（全学アドミッション・ポリシー（以下「AP」という。））にそって本学が実施した教育活動による学生の学修成果等について、これを評価し検証するための基本事項、実施内容、具体的手立て等を定め、これによって教育の質保証と学生の学びの向上を図るとともに、適切な教育改善を推進していくことを目的とする。

2. 学修成果

本学では、全学及び各学科の AP に基づいて実施した各種入学試験の結果を入学時に有する学ぶ力ととらえ、その基盤の上に全学及び各学科の CP によって編成された教育課程を履修することで、学生が確実に身につけ達成することを期待されているものを学修成果と考えている。学修成果の具体的内容は、全学及び各学科の DP に基づいて示される知識・理解、思考・判断・表現、技能、関心・意欲・態度の各観点からなる到達指標として示される。

学修成果は、教養科目及び専門科目について規定の単位を取得することはもちろん、他の様々な評価・検証の手立てによって検証され、一定の質的水準に達するようにしなければならない。本学では学生の学修成果が目標まで高められたことをもって教育効果としているが、学修成果を高めるためには、必要に応じて教育効果についても検証する必要がある。こうしたことを踏まえて、適切な方針のもとで確実に学修成果を評価・検証し、必要に応じてその結果から教育効果の検討も行いつつ、全学もしくは各学科・センター、各委員会、事務局で組織的、計画的な教育改善に取り組んでいくものとする。

3. 基本事項

(1) 評価・検証にあたって

学修成果等の評価・検証は、次のことを踏まえて計画、実施、結果の活用にあたるものとする。

- ①本学における学びによって、学生が確実に身につけ達成している状況を明らかにすること。
- ②学生の社会的職業的自立に向けた指導、就業力育成、就職・キャリア支援及び学生生活支援等の在り方も明らかにして、適切な学生支援に活用できるものであること。
- ③本学における教育・研究・社会活動全般の状況を把握し、DP の検証とともに諸方針並びに組織及び運営の見直しに活用でき、あわせて社会への説明責任を果たす際の資料となるものであること。

(2) 教育の方針・計画、卒業、授業、単位認定等に関する運用の基本や定義

事項	運用の基本や定義	根拠
①ガバナンス及びマネジメントの基本	<p>学校法人大垣総合学園の設置する経営会議の方針に基づいて、学長の下に次のとおり計画・実施・検証・改善にあたる。</p> <p>ア. 計画：本学経営委員会の基本的な方針に基づいて学科長会議が方針と計画の基本を定め、実施する部署が計画を立案する。</p> <p>イ. 実施：学科・センター、各委員会及び事務局が実施にあたる。</p> <p>ウ. 検証：実施部署が基本的検証を、学科長会議が総合的検証を、自己点検・評価委員会が全体的検証を行い、学長に報告する。</p> <p>エ. 改善：実施部署が基本的改善事項を、学科長会議が総合的改善事項を検討して自己点検・評価委員会に報告し、活用する。</p>	<p>○学校法人 経営会議規則</p> <p>○学校法人 経営委員会規程</p> <p>○学校法人組織・職務権限規程</p> <p>○学科長会議規程</p> <p>○自己点検・評価委員会規程</p> <p>○教学マネジメントに関する要項</p>

②教育の基本方針	建学の精神、教育理念、設置目的、全学及び各学科の DP・AP・CP、各学科の教育目標及び到達指標、教養教育及びキャリア教育の方針、学修成果等の検証に関するプラン（アセスメント・プラン）等を「教育に関する基本方針」として明示し、公表する。	○教学マネジメントに関する要項 第 3
③教育課程と計画	ア. 教育課程に関する編成及び実施、検討、改善等のカリキュラム・マネジメントについては、専門教育は各学科、教養教育は総合教育センター、キャリア教育は学生支援委員会が計画し、教務委員会で検討の上、学科長会議の審議を経て、学長が決定する。 イ. DP 及び到達指標との関係性を示した「カリキュラム・マップ」と、各授業科目の体系的性及び順序性を示した「カリキュラム・ツリー」を学科及び総合教育センターは作成して公表する。 ウ. すべての授業は、効果的な教育の実践を図るため、総合的な授業計画であるシラバスを要領に基づいて作成し、公表する。	○教学マネジメントに関する要項 第 5、第 6 ○シラバス作成要項
④卒業要件	修業年限（幼児教育学科、歯科衛生学科は 3 年、デザイン美術学科、音楽総合学科は 2 年）以上在学し、「学位授与の方針」のもと、学則に定める授業科目及び単位数（幼児教育学科 95 単位、デザイン美術学科 65 単位、音楽総合学科 65 単位、歯科衛生学科 97 単位）以上を修得した者について卒業を認定し、学位を授与する。	○学則 第 35 条、第 36 条 ○履修に関する要項 第 3
⑤授業の方法	授業の方法は、講義、演習、実習又は実技のいずれか、又はこれらの併用により行う。	○学則 第 28 条
⑥単位の計算方法	ア. 各授業科目の単位数は、1 単位の授業科目を 45 時間の学修を必要とする内容で構成し、次の基準により 1 単位とする。 （ア）講義は、15 時間の授業 （イ）演習は、30 時間の授業 （ウ）実習及び実技は、45 時間の授業 （エ）講義、演習、実習又は実技のうち 2 以上の方法を併用して行う授業は、組み合わせに応じて定める時間の授業 （オ）卒業研究、卒業制作等の授業は、別に定める時間の授業 （カ）教育効果等から必要な授業科目は、別に定める時間の授業 イ. 授業時間は 1 時限 90 分の授業を 2 時間と見なす。	○学則 第 29 条 ○教務規程 第 14 条 ○履修に関する要項 第 4
⑦単位の認定及び授与	ア. 授業科目を履修し、成績の評価で合格点を得た者には、所定の単位を与える。 イ. 原則として開講時数の 3 分の 1 以上授業を欠席した者及び授業料等の未納者の単位は認めない。	○学則 第 30 条 ○教務規程 第 15 条 ○履修に関する要項 第 14
⑧成績の評価基準等	ア. 成績の評価は、秀（AA）：100－90 点、優（A）：89－80 点、良（B）：79－70 点、可（C）：69－60 点、不可（D）：59－0 点の 5 段階とし、可（C）以上を合格とする（100 点満点とし、60 点以上を合格、それに満たない者は不合格）。 イ. 成績の評価は、課題への対応状況、授業への取り組み状況、授業期間・これ以外の期間又は定期試験期間中の筆記試験、実技試験又は口述試験、レポート、論文、作品等提出物の内容からシラバスに明記された到達目標及び基準に基づいて決定する。	○学則 第 31 条 ○教務規程 第 21 条 ○履修に関する要項 第 15、第 16 ○シラバス作成要項 ○成績評価実施要領
⑨観点別評価	成績評価にあたっては、学生の学修成果を多面的にとらえるため、「教育に関する基本方針」の到達指標に基づく観点別の評価もあわせて行うものとし、観点及び基準はシラバスに明記する。	○履修に関する要項 第 17 ○成績評価実施要領 ○シラバス作成要項
⑩履修単位数の上限	各学期に履修できる単位数の上限は 25 単位とし、成績等により緩和する条件を定める。	○履修に関する要項 第 6
⑪定期試験等	ア. 定期試験は、原則として定期試験期間において実施し、筆記試験、実技試験、レポートその他の方法による。 イ. 追試験及び再試験を設定し、要件に応じて実施する。	○教務規程 第 16 条、第 17 条、第 18 条 ○試験実施要領
⑫ GPA（グレード・ポイント・アベレージ）	ア. 履修科目で算出した GP（グレード・ポイント：（得点－55）÷10、60 点未満は 0）に当該科目の単位数を乗じた値を履修全科目で総計し、それを履修総単位数で除して算出した平均値。 イ. GPA は、受講単位の制限、修学への助言や指導、特定科目の履修や卒業の制限、退学勧告、表彰や奨学金等の選定基準等に活用する。	○履修に関する要項 第 18 ○GPA 制度に関する要項 第 2、第 3、第 9
⑬ GPC（グレード・ポイント・クラス・アベレージ）	各履修者の成績得点からそれに対応する GP を算出し、これらの合計を当該授業科目の履修登録者数で除して得られる数値をいい、すべての授業科目における目標値を 2.0 以上とする。	○GPC に関する要項 第 3、第 4

4. 実施

AP に適合することの判定、DP・到達指標・到達目標の各レベルにおける達成、諸方針や諸活動・入学試験・教育課程等の適切性に関する検討は、以下の内容について総合的に評価・検証するものとする。

(1) AP に適合する人材であることの判定

① 入学試験

- ア. 入学試験結果の状況
- イ. 調査書等に記載された状況（入学前の学習状況）

② 入学前教育

- ア. 入学前教育の取組状況
- イ. 入学時テスト等の状況

(2) DP の達成

① 全学レベル（全学 DP が達成されたかどうか）

- ア. 単位取得成績の観点別達成の総合的な状況
- イ. 退学率・休学率に関する総合的な状況
- ウ. 就職率・進学率（専門関連分野への就業率・進学率及び就業地域の状況を含む）の総合的な状況
- エ. 資格・免許等の取得に関する総合的な状況
- オ. 短大生調査（短期大学基準協会が実施）・学修行動等調査、授業評価等の総合的な結果
- カ. 全学 DP に関する学生の自己評価の総合的な結果

② 学科レベル（学科 DP 及び到達指標が達成されたかどうか）

- ア. 卒業要件の達成に関する状況（単位取得の状況、GPA）
- イ. 学年ごとの成績状況（単位取得状況、成績分布、GPA、GPC、単位取得成績の観点別達成状況）
- ウ. 専門分野に関連する資格・免許等の取得に関する状況（国家試験の合格状況を含む）
- エ. 専門関連分野への就業率・進学率の状況
- オ. 留年・退学・休学の状況
- カ. 短大生調査・学修行動等調査、授業評価等の結果
- キ. 学科 DP 及び到達指標に関する学生の自己評価の結果

③ 授業レベル（シラバスに示す DP と一貫性をもつ授業の到達目標が達成され、単位認定されたかどうか）

- ア. 単位認定とその成績
- イ. 試験・制作物・提出物等の結果
- ウ. 実験・実技・実習等の結果
- エ. 出席や学修活動に対する取組の状況
- オ. 素点及び観点別評価の結果
- カ. 授業評価の結果
- キ. 到達目標に関する学生の自己評価の結果
- ク. 科目の GPC

(3) 適切性の検討

① 諸方針及び諸活動等

全学レベルの学修成果の状況、結果及び報告等に基づき、各学科・センター、教務委員会、学生支援委員会等の検討の上に、自己点検・評価委員会並びに学科長会議が審議して、学長に報告する。

② AP に基づく入学試験

全学・学科レベルの学修成果など入学後の状況等に基づき、入学試験管理委員会が審議して学長に報告する。

③ CP による教育課程（コース設定等を含む）

全学・学科レベルの学修成果や GPA、GPC 等に基づき、教務委員会や学科が審議して学長に報告する。

5. 具体的手立て及び基準

学修成果等の評価・検証のために用いる主な具体的手立てと最低基準については、次のとおりとする。

手立て	時期	頻度	対象	内容	手法	担当	最低基準
入学試験	10月～3月	年6回	入学志願者	AP適合の判定	試験、面接、他	H、B	AP基準以上
新入生アンケート	4月	年1回	新入生	入学動機等	Web入力	H、D	良好80%以上
基礎力リサーチ	4月、10月	年2回	1年次生	基礎学力など	質問紙	C	
学校基本調査	5月	年1回	全学生	学籍等の調査報告	文科省に報告	総務課、H	定員90%以上
学生による授業評価	期末	年2回	全学生	授業への評価	Web入力	C、H	得点3.0以上
授業科目の成績評価	期末	年2回	全学生	授業の学修状況	試験、作品、他	E、H	得点60%以上
到達目標自己評価	11～12月	年1回	全学生	学修態度	Web入力	C、H、D	目標の80%以上
GPA の状況	期末	年2回	全学生	総合成績評価値	算出	H、学科	GPA 2.0以上
GPA状況(下位4分の1)	期末	年2回	全学生	学科成績分布状況	算出(学科・学年)	H、G、D	GPA 2.5以上
GPCの状況	期末	年2回	全授業科目	成績評価の状況	算出	H、G、D	全科目2.0以上
短大生調査(基準協会)	11～12月	年1回	全学生	生活・環境・学び	Web入力	H、F、D	目標の80%以上
学修行動等調査	11～12月	年1回	全学生	学修状況と成果	Web入力	H、C、D	目標の80%以上
観点別達成総合評価	3月	年1回	全学生	修得科目観点別状況	算出	H、G、D	80%以上到達
満足度調査	卒業時	年1回	卒業生・保護者	本学教育への満足度	質問紙、Web入力	F、H、D	80%以上満足
雇用者アンケート	11月	年1回	既卒生雇用者	就業状況や要望	質問紙、Web入力	F、H	80%以上満足
卒業者のキャリア調査	11月	年1回	既卒者	就業状況や学びの活用	Web入力	F、H	80%以上
学内保育総合試験	11～12月	年1回	幼教2年生	専門分野学修状況	筆記・実技試験	該当学科	得点60%以上
卒業展示会／演奏会	2、3月	年1回	卒業予定者	専門分野学修状況	発表会	該当学科	目標の80%以上
歯科衛生士国家試験	3月	年1回	卒業予定者	専門分野学修状況	外部筆記試験	該当学科	90%以上合格
卒業・資格等取得調査	3月	年1回	卒業生	卒業・資格取得状況	調査結果集約	H、G	目標の80%以上
卒業生就職状況調査	3月	年1回	卒業生	就職状況(業種地域)	調査結果集約	H	目標の80%以上
各年度自己点検・評価	3月	年1回	本学全体	学校運営の全体状況	点検結果集約	A	目標の80%以上

担当記号（A：自己点検・評価委員会、B：入学試験管理委員会、C：総合教育センター、D：IRセンター、E：科目担当教員、F：学生支援委員会、G：教務委員会、H：学務課）

6. 結果の取扱い

評価や検証等に係る結果は、教学マネジメントに関する要項等に基づいて適切に処理し、特に個人情報の取扱いに関しては遺漏のないよう十分に留意するものとする。原則として、計画・実施担当部署は、結果に関する報告書を学長に提出するとともに、必要に応じてALO（アクレディテーション・リエゾン・オフィサー：認証評価連絡調整責任者）にも報告する。さらに、学生や必要なステークホルダー（関係者）に対しても、適切な形式で結果を公開するよう努めるものとする。

本学の教育活動全体の改善を図るため、自己点検・評価委員会は結果に関する報告書に基づいて検討、分析、審議を行うとともに、学科長会議でも検討し、改善のための措置や取組を関連部署に提起するとともに、連携協定を結ぶ地方公共団体や公的団体等の外部関係者にも必要に応じて広く意見を求めていくよう努める。また、結果に係るデータ等は求めに応じてIR（インスティテューショナル・リサーチ）センターに送付し、IR センターは必要に応じて分析を加えた報告書を作成して学長に提出するものとする。